

かみのき塾・たんまち塾

主催：かみのき塾・たんまち塾



子どもの学習支援ボランティア「かみのき塾・たんまち塾」は、「多くの子どもの学びの機会を」と、神奈川県内の元教師たちが無償の学習支援の場として平成28年3月に立ち上げた。会場は「神之木地域ケアプラザ」と「はーと友神奈川」で、それぞれ月2回、子ども一人ひとりに寄り添った勉強の方法や楽しさを伝えている。

何もわからず始めた地域活動



子どもの学習の進み具合に応じて学習支援をする代表の長澤さん

代表の長澤さんは、在職中から子どもの貧困問題が子どもの学力につながるニュースを見るたび、「何かできないか」との思いをもっていた。退職を機に、かつての教師仲間へ声をかけ学習支援ボランティア活動をスタートさせたのだが、手探りで始めた活動は、教室の開き方や会場探し、地域への周知などでかなり苦戦した。住まいに近い大口駅周辺の不動産屋に出向き「ただで貸してくれる物件はありませんか」と相談したこともあった。地域活動の経験がなく、地域で活動することの難しさを感じての始まりだった。

地域のつながりが大きな力に



主任児童員の植松さんも会に賛同しメンバーになった

当初、活動情報を地域の子どもたちに届けるため、元同僚と一緒に手作りのチラシを持ち学校回りなどをしたが、その時は学校とのコンタクトもままならなかった。そんな時、当時民生委員をしていた教員仲間を通して地域とのつながりを得た。「地域の主任児童委員の方たちが学校回りや地域の会合に同行して下さり、背中を押されたように感じ大変ありがたかった」と長澤さん。これを機に区社協ともつながりができ、活動の情報を地域の子どもたちに届けやすくなり、確実に子どもの参加が増えていった。地域無縁ではじめて活動だったが、少しずつその道は広がっている。

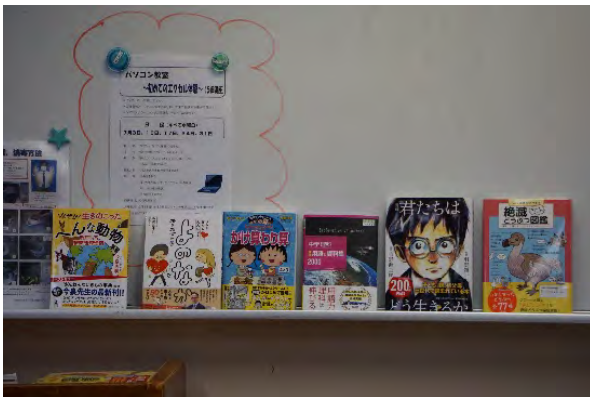
子どもたちには学習習慣をつけてもらいたい！



学習科目は、国語、算数・数学、理科、社会、英語、家庭科。それぞれ専門の元教師がおり、その分野の質問に応えられるのがここの強みだ。小学1年から中学3年の子どもたちが、毎回15人ほどが学びに来る。子どもたちは宿題やドリルを持参し自分のペースで学んでいる。中学生になっても、継続して学びにくる子どもも増え「勉強の習慣をつけてもらいたい」という長澤さんらの活動の思いが実を結びつつある。

運営は区社協の助成金を利用し、資料や教材費、スタッフの交通費などにあてている。また、「クリスマス会」などの特別企画には「赤い羽根募金」や横浜ロータリークラブからの支援をもらい行っている。子どもたちが楽しみにしているおやつは、区社協の紹介でNPO法人「おてらおやつクラブ」から月1回お菓子の提供が受けられるようになり、活動への理解が広がっている。

多くの子どもに学びの機会を



持ってきた教材が早く終わった時に利用できる図書がある

【かみのき塾・たんまち塾】

●かみのき塾

開催日時：第1・3水曜日 17時～19時

会場：神之木地域ケアプラザ

●たんまち塾

開催日時：第2・4水曜日 17時～19時

会場：は一と友神奈川

利用料：どちらも無料

今年で活動は4年目を迎える。現在、「かみのき塾・たんまち塾」ともに15人前後の小学生から中学生の子どもが参加している。貧困家庭の子どもたちの学習支援を目的に立ち上げた活動だったが、実際の子どもたちは家庭環境や発達の度合いも幅広く様々である。それぞれに違った学習課題を抱える子どもたち一人ひとりに丁寧に対応しようと、スタッフは努めている。そのために教えるスタッフの不足という課題に直面している。

今年4月からは図書を用意し、持ってきた教材が早く終わった時に利用できる。また、「かみのき塾・たんまち塾便り」を発行し、塾と家庭をつなぐために、子どもたちの様子や子どもたちを応援するメッセージを中心に記事を掲載している。「九九や時計も読めなかった子どもが、意欲を見せてくれると、現役の教師時代とはまた違った喜びや楽しさを感じています」と長澤さん。たった一人で思い立ち始めた活動が、今、多くの子どもの放課後の学びを支えている。